
2022年3月期 第2四半期 決算プレゼンテーション資料



アコム株式会社

<https://www.acom.co.jp/corp/ir/>

2021年11月9日



目次

1. 経営環境	3	14. 金融費用	16
2. 個人向けカードローン市場の規模推移	4	15. 配当状況	17
3. 決算概要	5	参考情報	
4. セグメント別構成比	6		
5. ローン・クレジットカード事業の概況(アコム)	7		
6. ローン事業の概要	8		
7. 信用保証事業の概況(アコム、エム・ユー信用保証)	9		
8. 信用保証事業の概況(アコム)	10		
9. 海外金融事業のターゲット市場	11		
10. 海外金融事業の概況	12		
11. 利息返還請求件数の推移(アコム)	13		
12. 利息返還損失の推移(アコム)	14		
13. 貸倒関連費用	15	16. 【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2022年3月期①～	19
		17. 【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2021年3月期①～	20
		18. 【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2022年3月期②～	21
		19. 【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2021年3月期②～	22
		20. 【参考】コロナ禍における借入行動等の変化	23
		21. 【参考】優先的に取り組む社会課題と対応するSDGs	24
		22. 【参考】2022年3月期 通期計画	25
		23. 【参考】中期経営方針、中期重点テーマ	26
		24. 【参考】中期経営計画(2020/3-2022/3) 業容・業績	27
		25. 【参考】中期経営計画(2020/3-2022/3) 事業別業容・業績	28
		26. 【参考】中期経営計画(2020/3-2022/3) 資本政策	29



マクロ環境

<日本>

- 新型コロナウイルス感染症に対する防疫措置をとりながらの社会・経済活動が続いており、景気動向は依然として厳しい状況
- ワクチンの接種が進み、緊急事態宣言等が解除されるなど、足元では消費マインドに持ち直しの動き

<タイ王国(2021年6月時点)>

- 2021年6月下旬、バンコクと周辺5県の行動制限を厳格化。景気動向は引き続き厳しい状況

<フィリピン共和国(2021年6月時点)>

- 現地政府のコミュニティ隔離措置による活動制限やワクチン接種の遅れ等により、景気動向は厳しい状況

市場・競争環境

<日本>

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により資金需要が低位で推移したことから、個人向けカードローンの市場規模は縮小
- 今後は資金需要は緩やかに回復し、市場規模は回復基調に向かうことを期待
- 利息返還請求は着実に減少しているものの、外部環境の変化などの影響を受けやすいことから、引き続き動向を注視

<タイ王国(2021年6月時点)>

- 2020年8月1日、タイ中央銀行よりから上限金利引下げ(28%⇒25%)が示達
- ノンバンク市場の成長率は前年同期比+3.2%と持ち直しの動きがみられるものの、足元では新型コロナウイルスの感染者数が急増しており、今後の市場動向に注視が必要

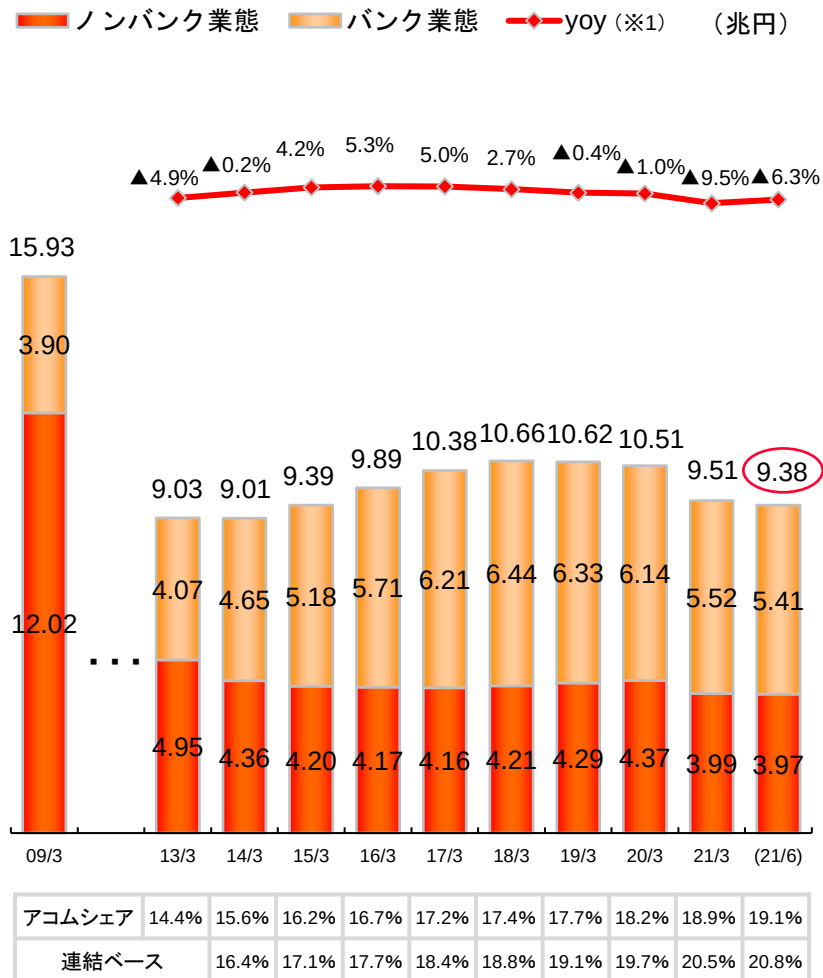
<フィリピン共和国(2021年6月時点)>

- 個人向け無担保ローンの市場規模は継続拡大
- 足元では新型コロナウイルスの感染者数が急増しており、今後の市場動向に注視が必要

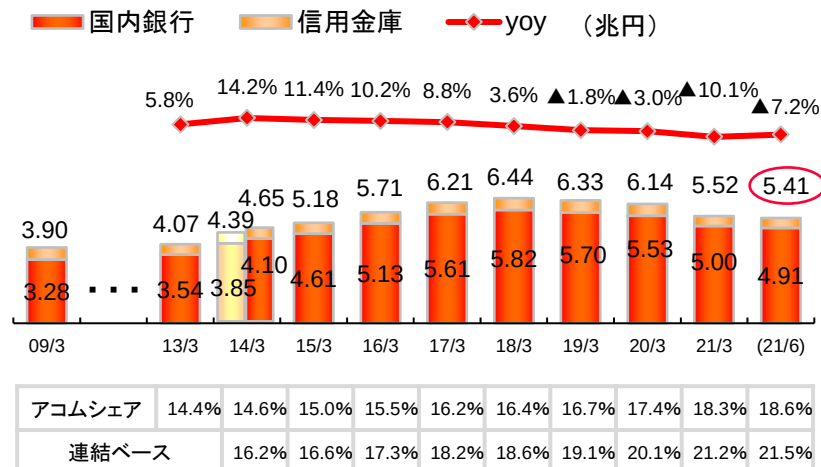


個人向けカードローン市場の規模推移

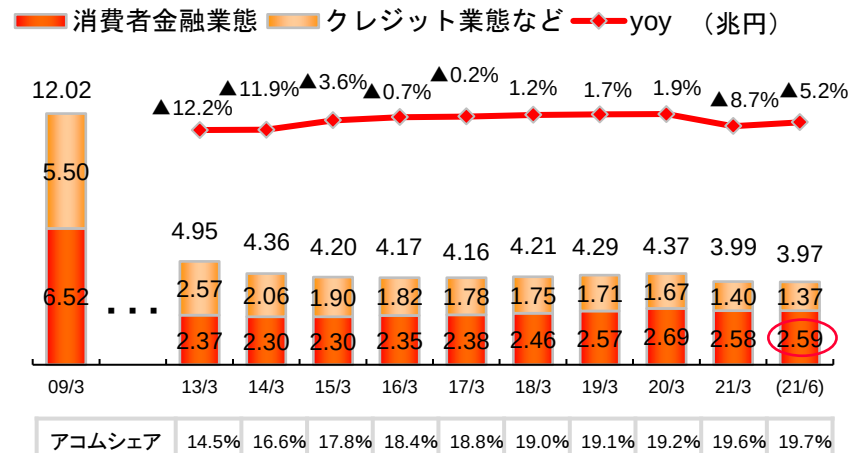
個人向けカードローン市場



バンク業態(※2)



ノンバンク業態(※3)



※1. “yoy”は前年同期比 (次ページ以降も同様)

※2. バンク業態とは、日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高
(14/3のバンク市場残高は、2015年8月10日に日本銀行統計が訂正され0.26兆円増加)

※3. ノンバンク業態とは、日本貸金業協会統計の営業貸付金残高(証書貸付を含む)、日本貸金業協会統計の2021年6月数値は速報値



決算概要

		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
		連結					単体				
(単位:百万円、%)		2021/9		2022/3			2021/9		2022/3		
<業容>		実績	yoy (ytd)(※1)	計画(※2)	yoy	進捗率	実績	yoy (ytd)	計画(※2)	yoy	進捗率
1	営業債権残高	2,230,593	-0.8 (-0.2)	2,290,400	2.5		1,869,728	-1.2 (-0.3)	1,917,100	2.2	
2	ローン・クレジットカード事業	863,168	-0.8 (+0.0)	878,000	1.8		863,168	-0.8 (+0.0)	878,000	1.8	
3	信用保証事業	1,165,748	-1.1 (-0.4)	1,204,800	3.0		1,006,560	-1.5 (-0.6)	1,039,100	2.6	
4	海外金融事業	193,800	1.7 (+0.0)	200,100	3.3		-	-	-	-	
<業績>											
5	営業収益	131,423	-2.6	260,700	-2.1	50.4	97,336	-2.9	193,800	-2.1	50.2
6	ローン・クレジットカード事業	71,428	-2.1	142,000	-1.7	50.3	71,428	-2.1	142,000	-1.7	50.3
7	信用保証事業	31,137	-4.9	62,400	-2.9	49.9	25,860	-5.2	51,700	-3.3	50.0
8	海外金融事業	25,925	-3.9	51,200	-1.8	50.6	-	-	-	-	-
9	営業費用	83,052	3.2	180,800	8.0	45.9	62,384	5.5	135,000	8.8	46.2
10	金融費用	2,888	-7.6	5,000	-14.8	57.8	1,745	-12.5	3,400	-11.5	51.3
11	貸倒関連費用	33,906	3.5	78,400	18.4	43.2	25,211	10.7	57,000	22.7	44.2
12	利息返還費用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	その他の営業費用	46,257	3.8	97,400	2.1	47.5	35,428	3.0	74,600	1.2	47.5
14	営業利益	48,370	-11.2	79,900	-19.2	60.5	34,951	-15.0	58,800	-20.5	59.4
15	経常利益	48,868	-11.8	80,100	-19.9	61.0	39,811	-14.4	64,800	-20.3	61.4
16	税金等調整前当期純利益	48,704	-12.0	79,900	-19.5	61.0	39,649	-14.7	64,600	-19.8	61.4
17	当期純利益	41,599	-9.9	64,800	-22.5	64.2	35,973	-10.1	55,400	-21.9	64.9
18	親会社株主に帰属する当期純利益	39,147	-10.0	61,000	-22.7	64.2	-	-	-	-	-

※1. “ytd”は前期末比（次ページ以降も同様）

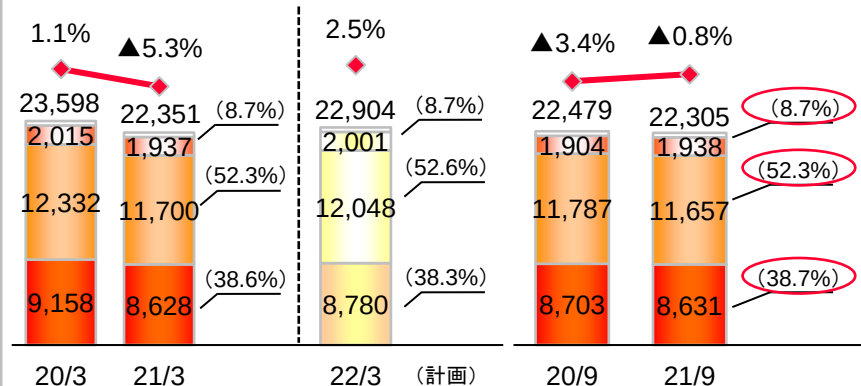
※2. 2021年5月13日に公表した業績予想からの修正はありません



セグメント別構成比

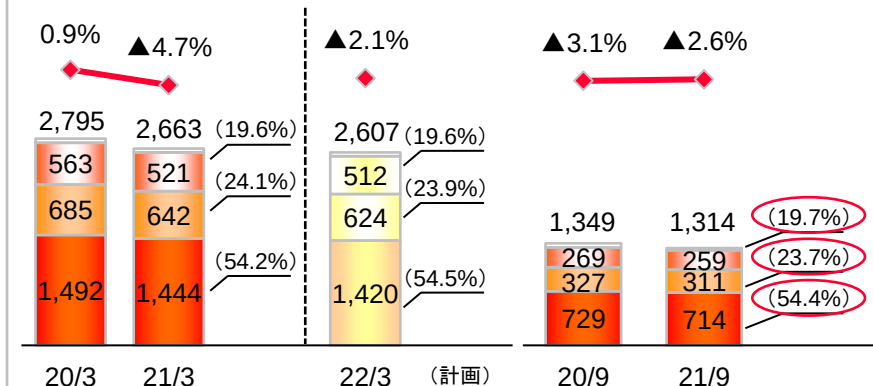
営業債権残高

■ L.C. 事業(※)
 ■ 信用保証事業
 ■ 海外金融事業
 ■ その他
 ◆ yoy ()セグメント別構成比 (億円)



営業収益

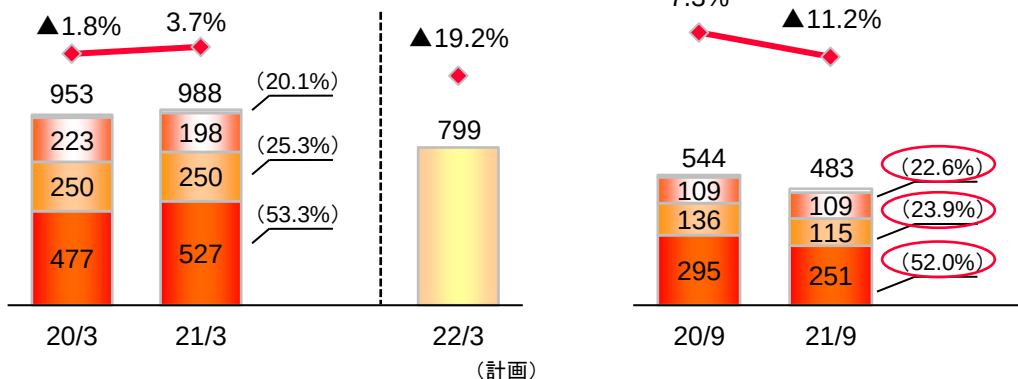
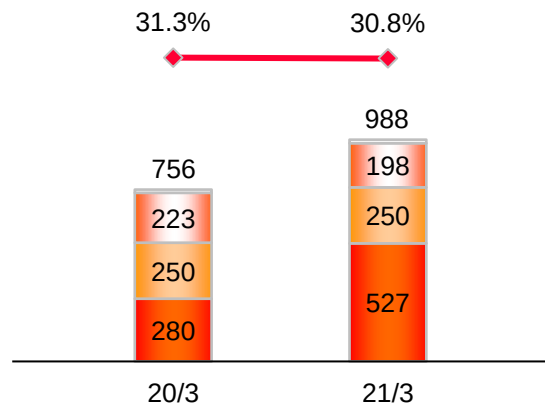
■ L.C. 事業
 ■ 信用保証事業
 ■ 海外金融事業
 ■ その他
 ◆ yoy ()セグメント別構成比 (億円)



営業利益

■ L.C. 事業
 ■ 信用保証事業
 ■ 海外金融事業
 ■ その他
 ◆ yoy ()セグメント別構成比 (億円)

<参考> 利息返還費用を除く営業利益



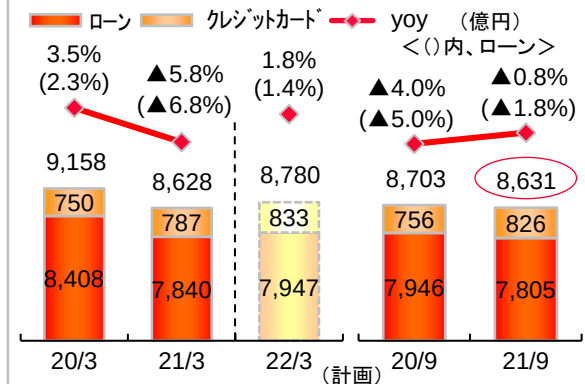
※ L.C. 事業とは、ローン・クレジットカード事業



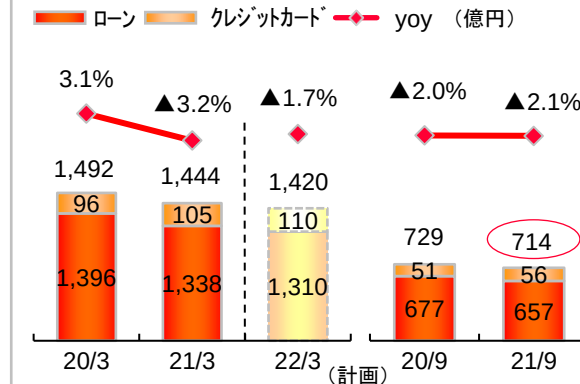
ローン・クレジットカード事業の概況(アコム)

- 営業債権残高：資金需要が低位で推移した結果、前年同期比▲0.8%（前期末比+0.0%）の8,631億円
- 営業収益：営業貸付金利息の減少等により、同▲2.1%の714億円
- 営業利益：貸倒関連費用および広告宣伝費の増加により、同▲14.9%の251億円

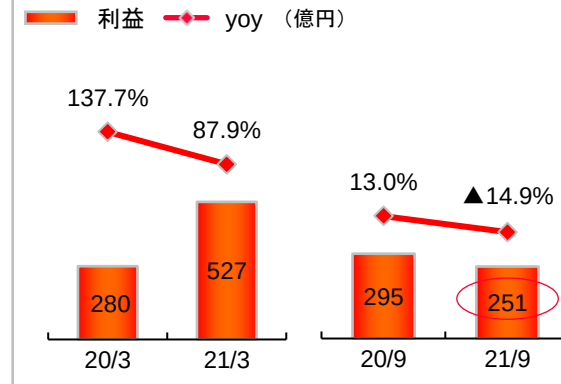
営業債権残高



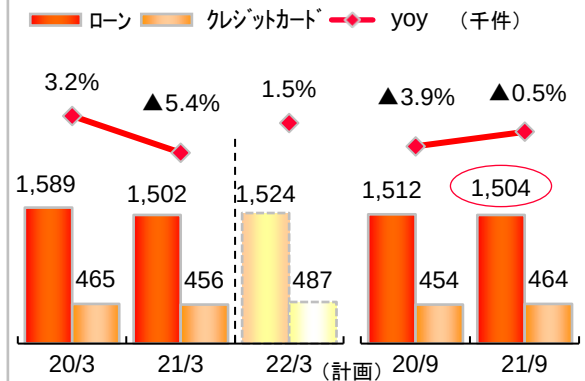
営業収益



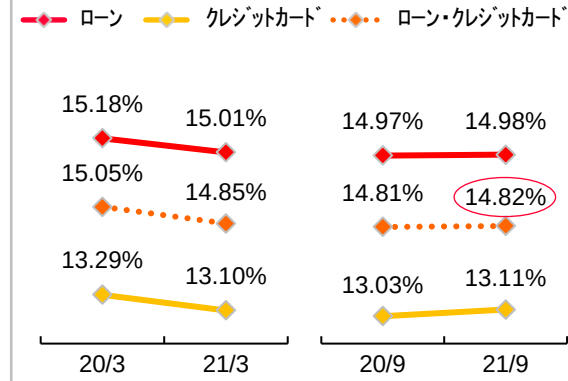
営業利益



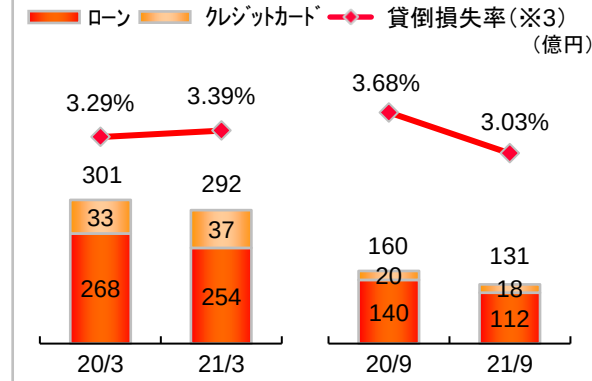
口座数



期中平均利回り(※1)



貸倒損失額・損失率(※2)



※1. クレジットカードにおける利回りは、リボルビングにおける残高と手数料より算出

※2. 貸倒損失額及び損失率は、利息返還請求に起因する債権放棄分を除く

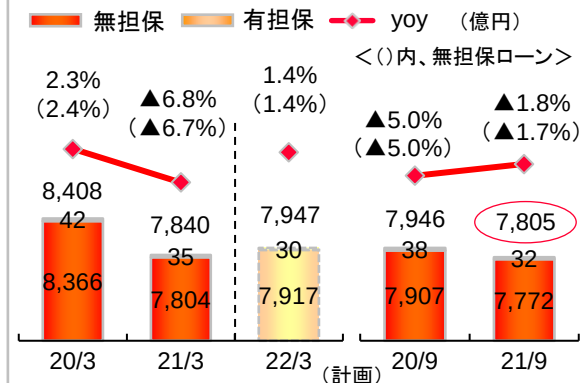
※3. 貸倒損失率の2020/9及び2021/9は年率換算



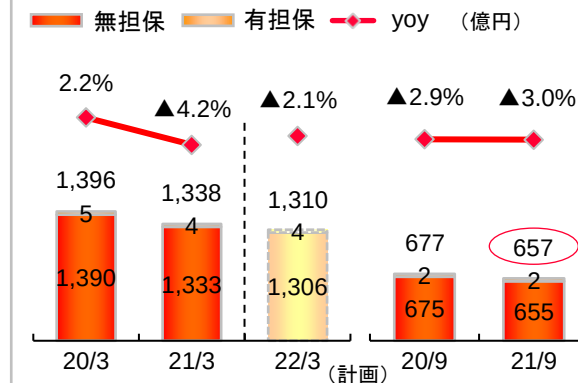
ローン事業の概況(アコム)

- 営業貸付金残高：前年同期比▲1.8%（前期末比▲0.4%）の7,805億円
- 営業収益：同▲3.0%の657億円
- 新客数：同+49.7%の112千件

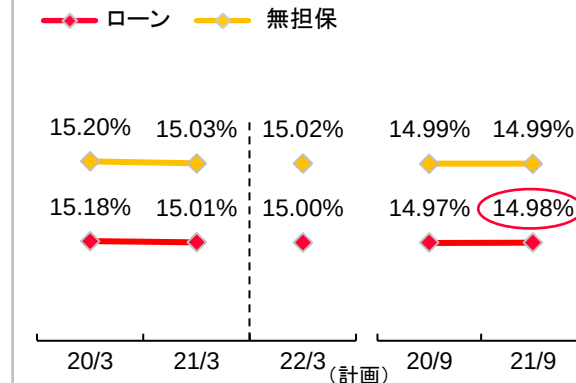
営業貸付金残高



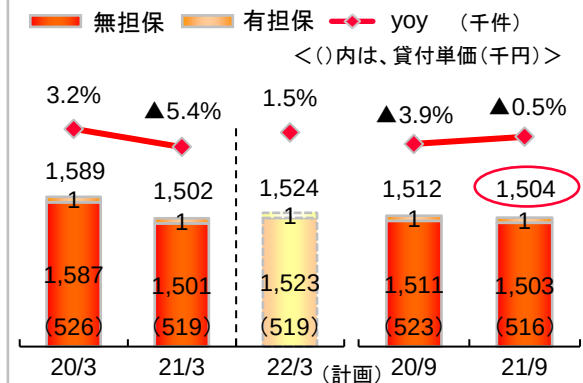
営業収益



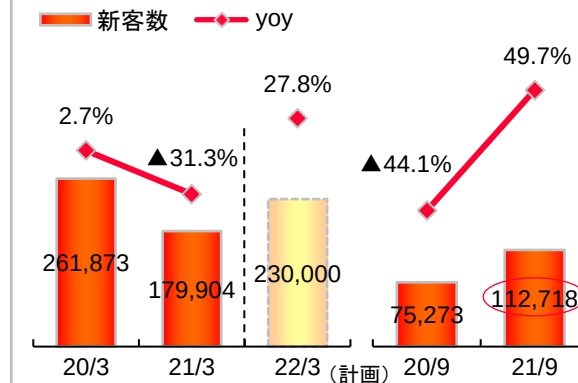
期中平均利回り



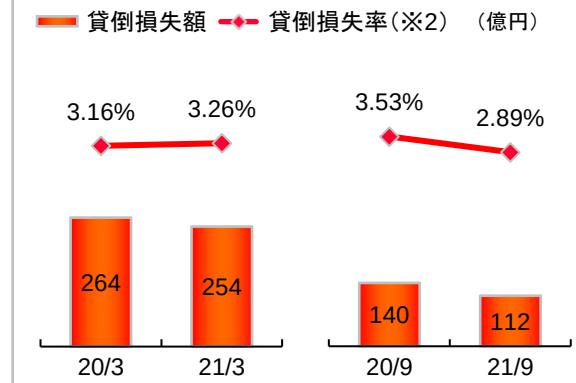
口座数



新客数(無担保)



貸倒損失額・損失率(無担保)(※1)



※1. 貸倒損失額及び損失率は、利息返還請求に起因する債権放棄分を除く

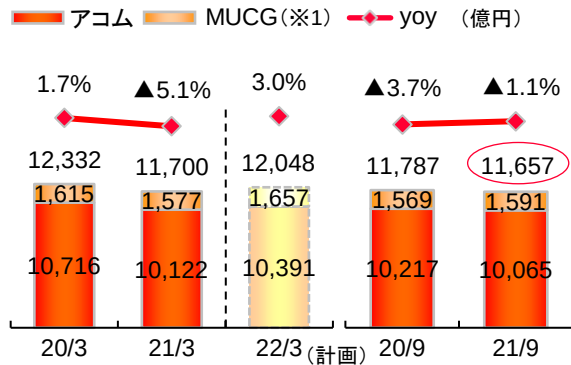
※2. 貸倒損失率の2020/9及び2021/9は年率換算



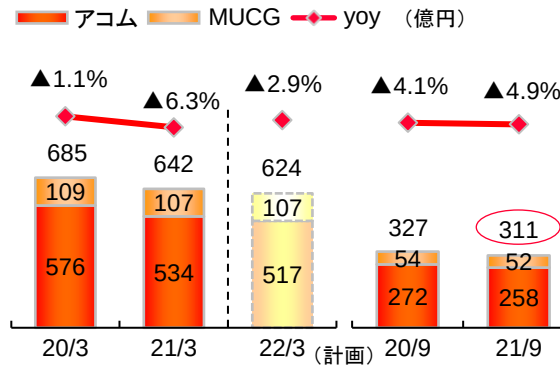
信用保証事業の概況(アコム、エム・ユー信用保証)

- 信用保証残高：資金需要が低位で推移した結果、前年同期比▲1.1%(前期末比▲0.4%)の11,657億円
- 営業収益：信用保証収益の減少等により、同▲4.9%の311億円
- 営業利益：貸倒関連費用の増加により、同▲15.1%の115億円

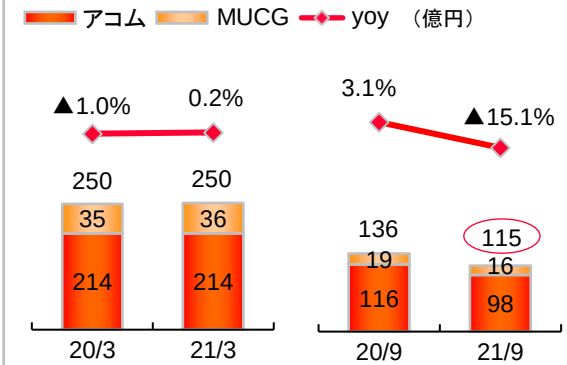
信用保証残高



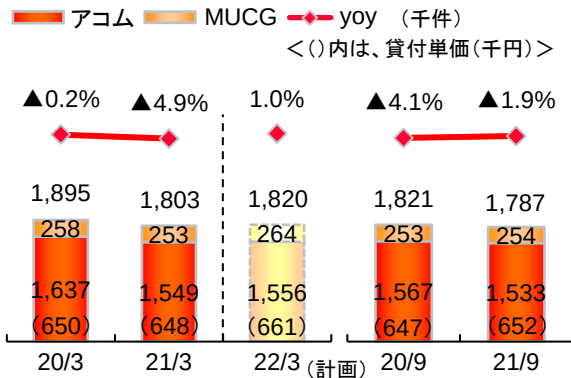
営業収益



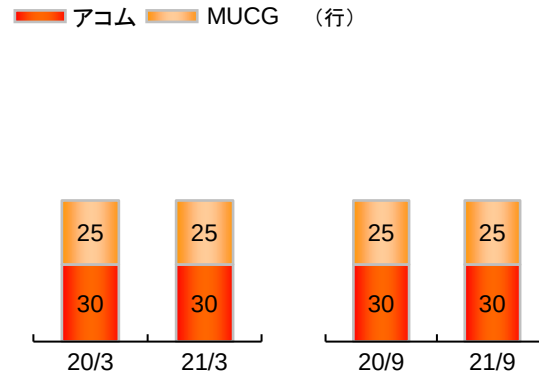
営業利益



口座数



提携先数(※2)



提携カバーエリア

全国47都道府県中
41都道府県をカバー



※1. MUCGとは、エム・ユー信用保証株式会社

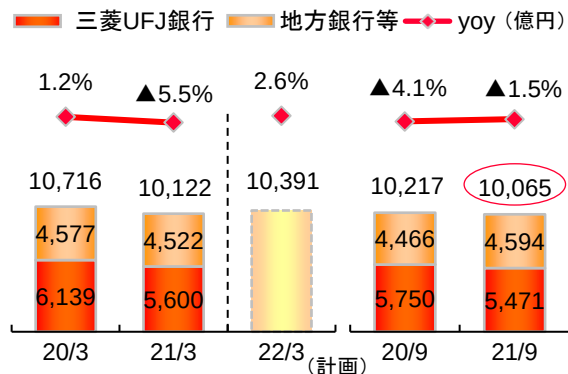
※2. 提携先数は、アコムとMUCGで3行重複



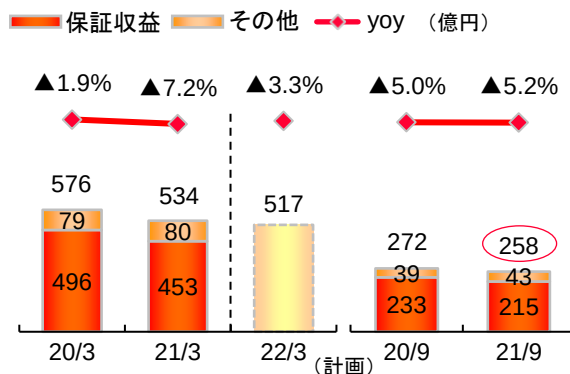
信用保証事業の概況(アコム)

- 信用保証残高：前年同期比▲1.5%（前期末比▲0.6%）の10,065億円
- 営業収益：同▲5.2%の258億円
- 営業利益：同▲15.1%の98億円

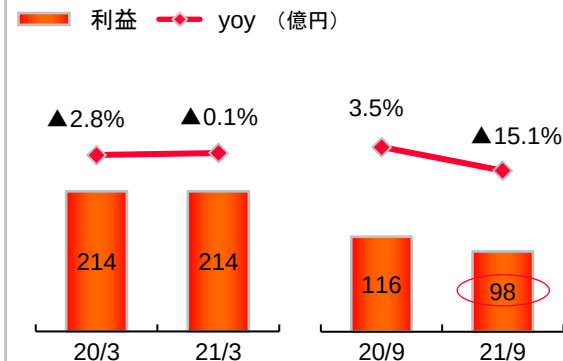
信用保証残高



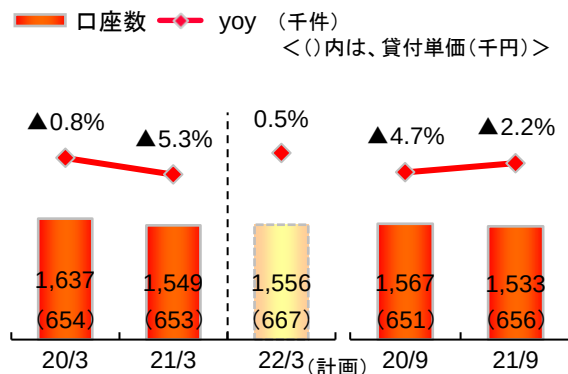
営業収益



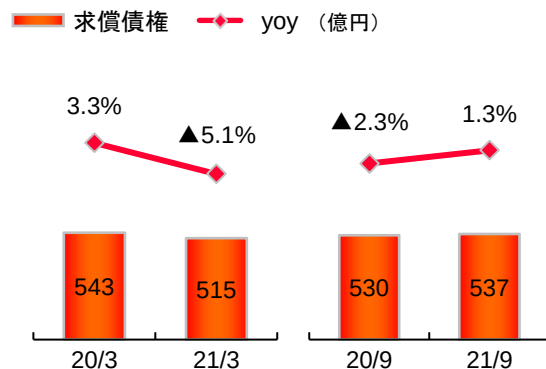
営業利益



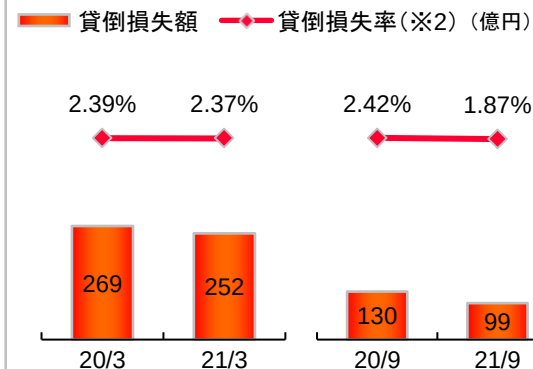
口座数



求償債権残高(※1)



貸倒損失額・損失率



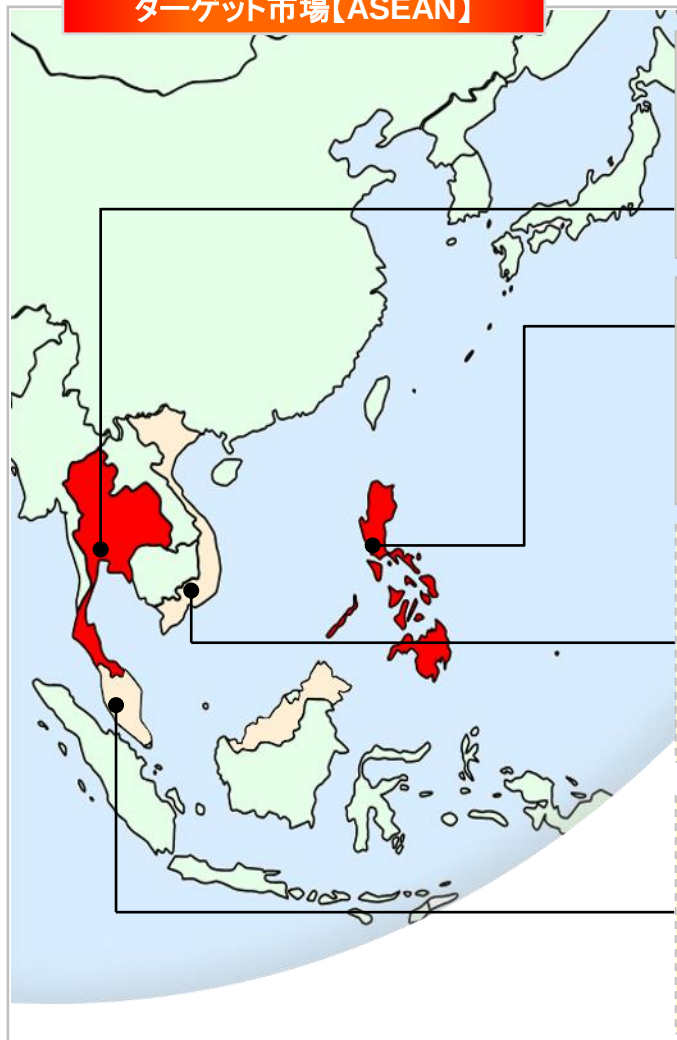
※1. 求償債権残高とは、保証履行未償却債権残高

※2. 貸倒損失率の2020/9及び2021/9は年率換算



海外金融事業のターゲット市場

ターゲット市場【ASEAN】



【タイ王国】

【EASY BUY Public Company Limited】

出 資 比 率：71.00%

設 立 年 月：1996年9月

事 業 内 容：無担保ローン事業、
インストールメントローン事業

- 7・8月に新型コロナウイルスの感染者数が急増。EASY BUYでも営業活動を一部停止したことで、業務量が低下。延滞の増加や貸倒れの増加が想定されるため影響を注視

【フィリピン共和国】

【ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION】

出 資 比 率：80.00%

設 立 年 月：2017年7月

事 業 内 容：無担保ローン事業

- 2018年7月より事業開始
- 第2四半期の業容・業績は概ね計画通りに進捗
- 4月・8月に都市がロックダウンとなるなど、先行き不透明な状況。引き続き影響を注視

ライセンス申請中

【ベトナム社会主義共和国】

【ACOM VIETNAM FINANCE COMPANY LIMITED】

所 在 地：ホーチミン

資 本 金：6,000億ドン（約29億円）

出 資 比 率：100.00%

- 2014年5月に会社設立に係るライセンスを申請
- 2016年6月に同ライセンスを再申請
- 審査終了後、速やかに事業開始予定

法人設立

【マレーシア】

【ACOM (M) SDN. BHD.】

所 在 地：クアラルンプール

資 本 金：200万リンギット（約5千万円）※

出 資 比 率：100.00%

- 2021年7月に設立
- 2021年11月にライセンス申請予定

※ ACOM (M) SDN. BHD.の資本金は増資が完了した際の金額

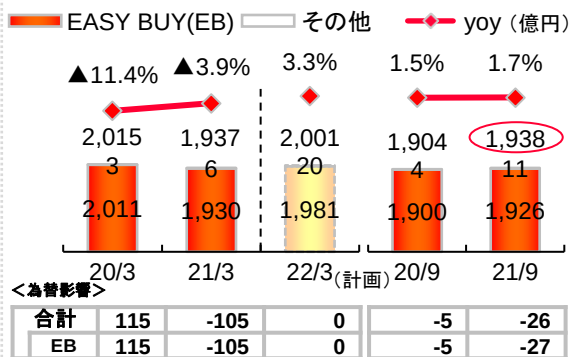


海外金融事業の概況

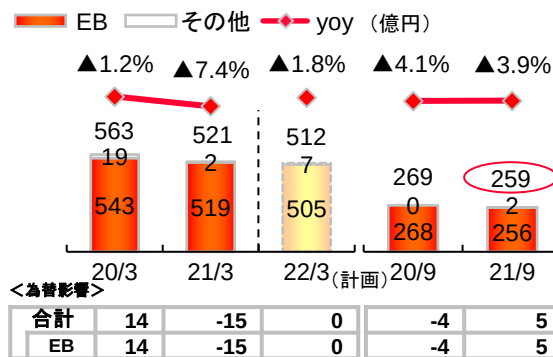
- 営業債権残高(連結)：前年同期比+1.7% (前期末比+0.0%)の1,938億円
- 営業収益(連結)：EASY BUYの上限金利引下げの影響により、同▲3.9%の259億円
- 営業利益(連結)：EASY BUYの貸倒関連費用の減少等により、同+0.1%の109億円

海外金融事業【円ベース】(※1)

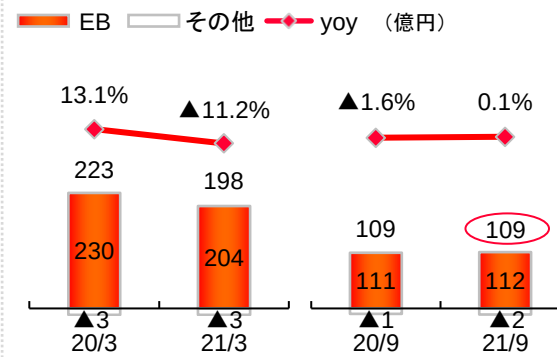
営業債権残高(※2)



営業収益

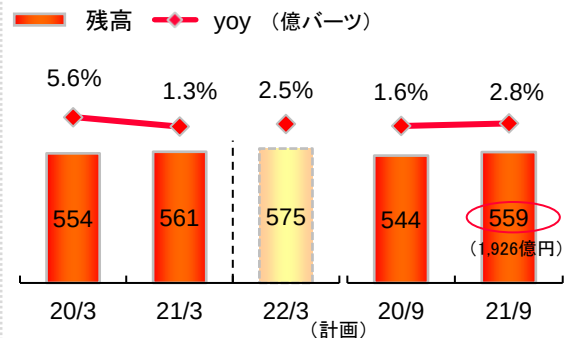


営業利益(※3)

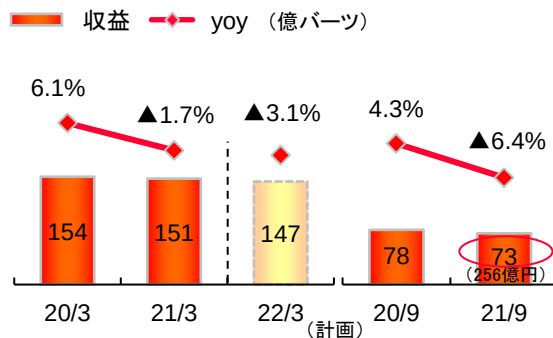


EASY BUY【現地通貨ベース】

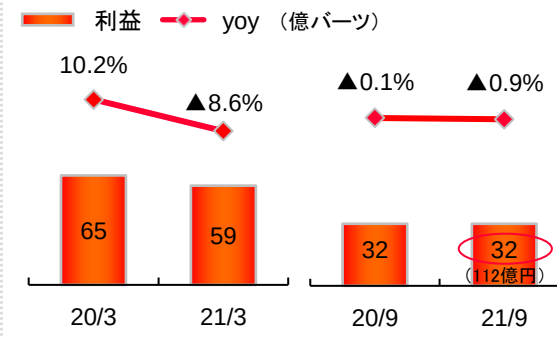
営業債権残高(※2)



営業収益



営業利益



※1. 為替レート：パーツ B/S:3.49円(20/9)、3.44円(21/9)、計画3.44円(22/3) P/L:3.43円(20/9)、3.50円(21/9)、計画3.42円(22/3)

第2四半期為替変動：パーツ(B/S yoy ▲0.05円 P/L yoy+0.07円)

※2. 営業債権残高 = 営業貸付金残高 + 割賦売掛金残高 ※3. 営業利益はセグメント利益を掲載



利息返還請求件数の推移(アコム)

- 請 求 件 数 : 前年同期比▲10.3%の10,400件
- 予 想 (件 数) : 2022年3月期の請求件数は、前期比▲10%から▲15%を予想

●利息返還請求件数(※1)(※2)

(単位:件、%)

	2017/3		2018/3		2019/3		2020/3		2021/3			2022/3		
	利息返還 請求件数	yoy	利息返還 請求件数	yoy	利息返還 請求件数	yoy	利息返還 請求件数	yoy	利息返還 請求件数	yoy	1営業日 当たり	利息返還 請求件数	yoy	1営業日 当たり
合計	60,700	-15.9	34,300	-43.5	27,100	-21.0	24,700	-8.9	22,100	-10.5	90	10,400	-10.3	85
4月	5,500	-15.4	3,600	-34.5	2,400	-33.3	2,200	-8.3	1,600	-27.3	76	1,800	12.5	85
5月	5,600	1.8	3,400	-39.3	2,600	-23.5	2,100	-19.2	1,700	-19.0	94	1,600	-5.9	88
6月	5,800	-9.4	3,400	-41.4	2,500	-26.5	2,300	-8.0	2,500	8.7	113	2,000	-20.0	90
7月	4,900	-19.7	2,800	-42.9	2,400	-14.3	2,300	-4.2	2,100	-8.7	100	1,700	-19.0	85
8月	4,700	-11.3	2,500	-46.8	2,300	-8.0	1,900	-17.4	1,900	0.0	95	1,600	-15.8	76
9月	4,800	-27.3	2,800	-41.7	2,000	-28.6	2,000	0.0	1,800	-10.0	90	1,700	-5.6	85
10月	4,600	-31.3	2,700	-41.3	2,400	-11.1	2,200	-8.3	1,800	-18.2	81			
11月	4,900	-18.3	4,100	-16.3	2,200	-46.3	2,000	-9.1	1,700	-15.0	89			
12月	5,200	-10.3	2,300	-55.8	1,800	-21.7	1,900	5.6	1,700	-10.5	80			
1月	4,500	-4.3	2,000	-55.6	2,000	0.0	1,800	-10.0	1,400	-22.2	73			
2月	5,200	-16.1	2,200	-57.7	2,200	0.0	1,800	-18.2	1,800	0.0	100			
3月	5,000	-21.9	2,500	-50.0	2,300	-8.0	2,200	-4.3	2,100	-4.5	91			

※1. 利息返還請求件数: 弁護士・司法書士受任債権発生件数の内、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数

※2. 利息返還請求件数には再受任分を含む



利息返還損失の推移(アコム)

- 取崩額：前期末残高567億円から151億円を取崩す（利息返還金135億円 + 債権放棄16億円）
- 引当金残高：2Qにおける追加繰入はなく、415億円。2024年3月期までをカバー
- 予想（取崩額）：2022年3月期の取崩額は前期比▲20%程度を予想（※）

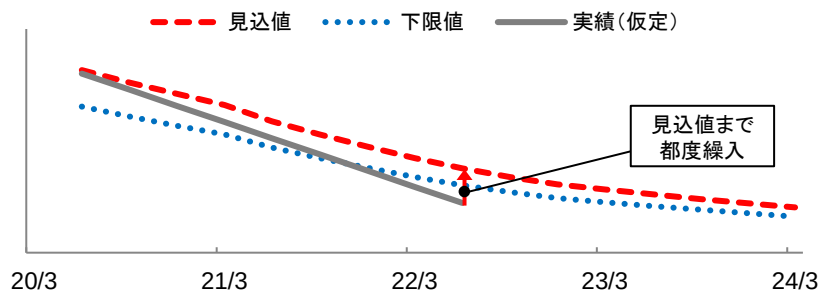
●利息返還損失引当金

（単位：百万円、％）

	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3						2022/3			
					1Q	2Q	3Q	4Q	累計	yoy	1Q	2Q	累計	yoy
取崩額	68,828	60,831	41,248	34,400	6,854	7,385	8,447	8,170	30,858	-10.3	7,034	8,143	15,177	6.6
利息返還金	58,852	53,470	36,586	30,686	6,113	6,576	7,436	7,261	27,389	-10.7	6,257	7,312	13,569	6.9
貸倒損失 （債権放棄）	9,975	7,360	4,661	3,713	741	808	1,010	908	3,468	-6.6	777	831	1,608	3.8
繰入額	143,728	-	39,479	19,700	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
引当金増減額	74,900	-60,831	-1,768	-14,700	-6,854	-7,385	-8,447	-8,170	-30,858	-	-7,034	-8,143	-15,177	-
期末引当金残高	164,900	104,068	102,300	87,600	80,745	73,359	64,912	56,741	-35.2	-	49,707	41,563	-43.3	-

引当金繰入のイメージ

<引当金残高>



利息返還損失引当金のポイント

- ① 四半期毎の引当金残高が当初の見込値の下限値を下回った場合には、見込値との差額のみを繰入
- ② 以下のタイミングで、必要引当金の見積方法変更の必要性を再評価する
 - 四半期毎の引当金残高が当初の見込値の下限値を大きく下回った時
 - 3年に1度の中期経営計画策定時

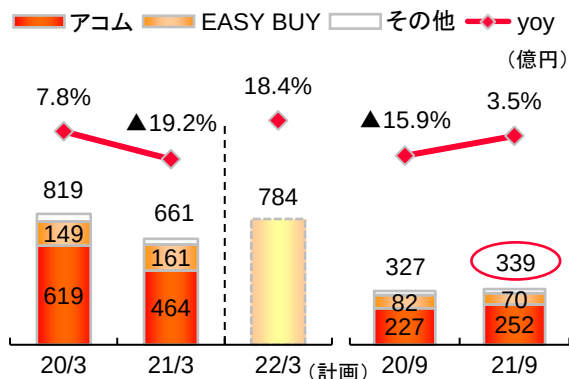
※ 2020年3月期の追加繰入時点の将来予想



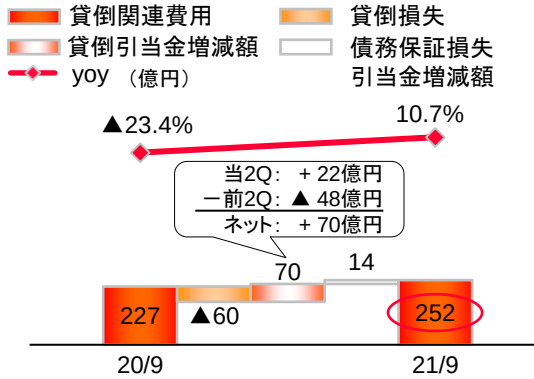
貸倒関連費用

- 貸倒関連費用(連結): アコム単体の増加により、前年同期比3.5%の339億円
- 貸倒損失額(アコム): 同▲60億円の230億円
- 不良債権比率(アコム): 同+49bpsの8.03%

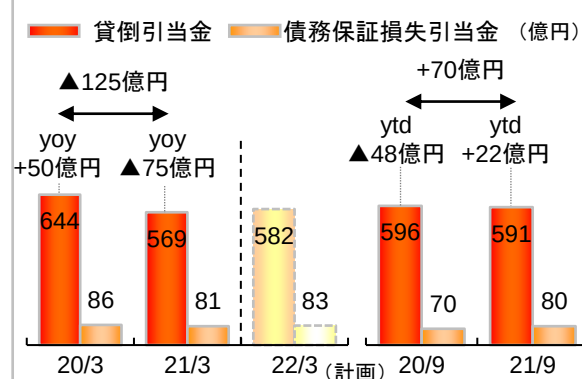
貸倒関連費用(連結)



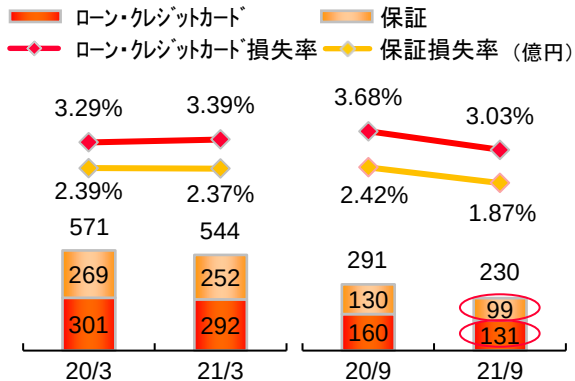
貸倒関連費用(アコム)



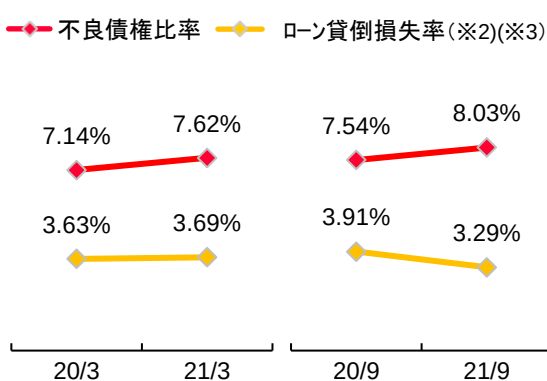
貸倒・債務保証損失引当金(アコム)



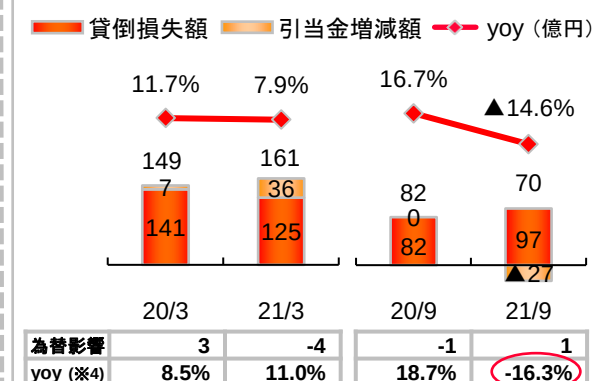
貸倒損失額・損失率(アコム)(※1)(※2)



不良債権・損失率(アコム)



<参考> 貸倒関連費用(EASY BUY)



※1. 貸倒損失額および損失率は、利息返還請求に起因する債権放棄分を除く ※2. 貸倒損失率の2020/9および2021/9は年率換算

※3. 貸倒損失率は、利息返還請求に起因する債権放棄分を含む

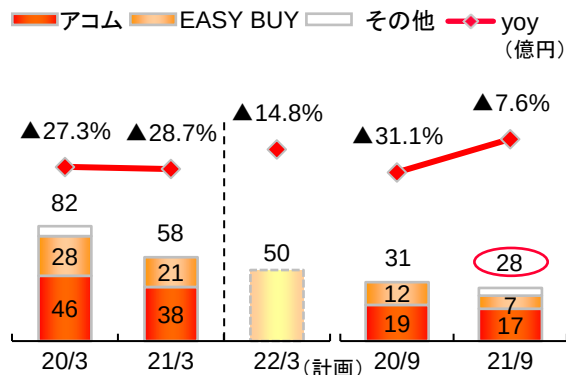
※4. 現地通貨ベースの前年同期比



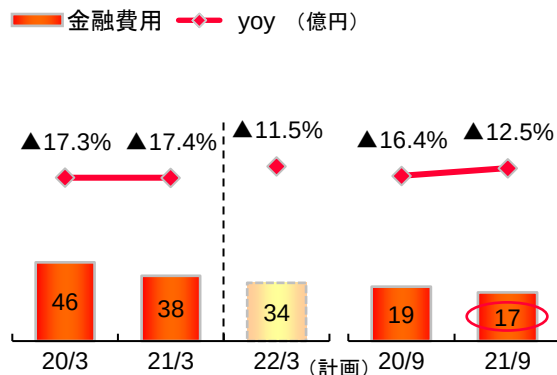
金融費用

- 金融費用(連結)：前年同期比▲7.6%の28億円
- 資金調達残高(アコム)：同▲475億円の4,970億円
- 期中平均調達金利(アコム)：同±0bpsの0.68%

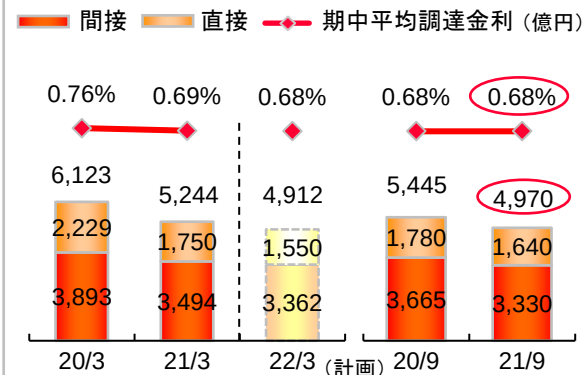
金融費用(連結)



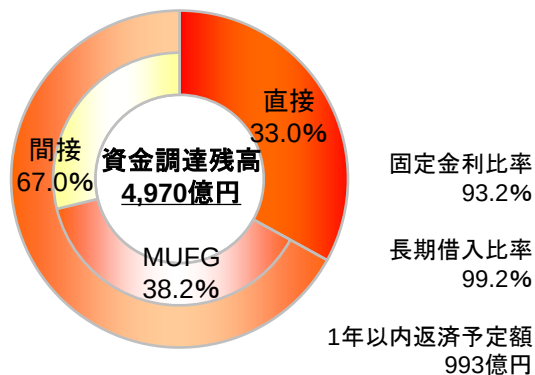
金融費用(アコム)



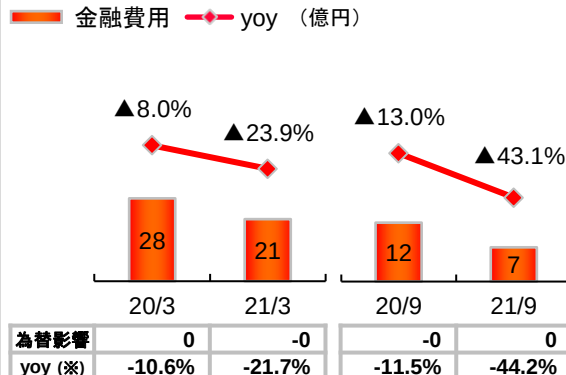
資金調達残高(アコム)



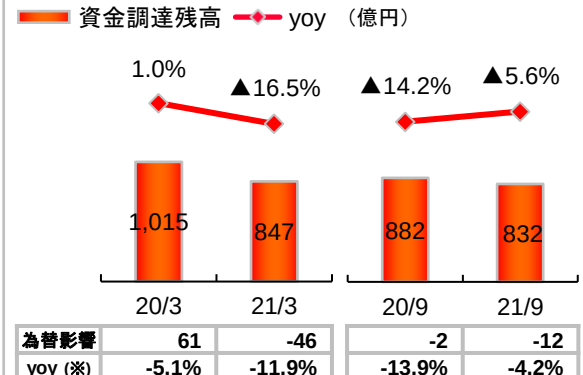
借入先別構成比(アコム)



金融費用(EASY BUY)



資金調達残高(EASY BUY)



※ 現地通貨ベースの前年同期比



配当状況

配当の基本的な考え方

- 業績、自己資本ならびに当社を取り巻く経営環境を勘案の上、安定的、継続的な利益還元を図り、株主還元の充実を目指す

業容・業績

- 当第2四半期の業容は、新型コロナウイルス感染症の影響により、資金需要が低位で推移したことから減少した
- 業績については、営業収益は計画通りの進捗となった。一方で、営業利益は、貸倒損失額の減少により、計画を上回って着地した

自己資本

- 当第2四半期では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、営業債権残高や信用保証残高が減少したことで自己資本が増加した
- 連結総資産に信用保証残高を加算して算出した自己資本比率は、21.9%となった

経営環境

- 9月30日に、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が全都道府県で解除されたものの、依然として、新型コロナウイルス感染症による先行きの不透明感が払拭できない状況
- 利息返還損失引当金の取崩額は、返還単価の高い訴訟の割合が増加していることから、予想を上回って推移

配当実績及び配当予想

- 2021年3月期は年間6円。2022年3月期は年間6円の配当を予想。

	2020年3月期(実績)		2021年3月期(実績)		2022年3月期	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末
配当金	2円	2円	3円	3円	3円	3円(予想)
	年間4円		年間6円		年間6円(予想)	

<参考>

自己資本比率(※)	連結	16.2%	16.5%	18.9%	20.3%	21.9%	—
	単体	16.5%	16.6%	19.2%	20.7%	22.4%	—

※ 総資産に信用保証残高を加算して算出した自己資本比率

参考情報

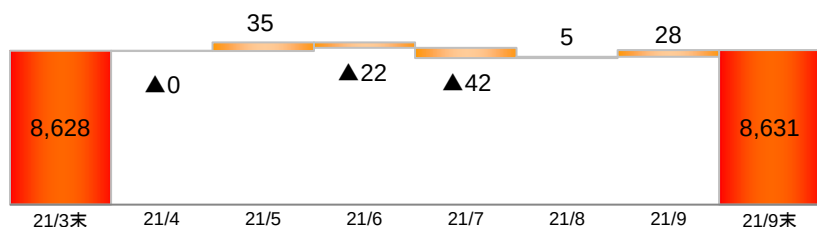


【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2022年3月期①～

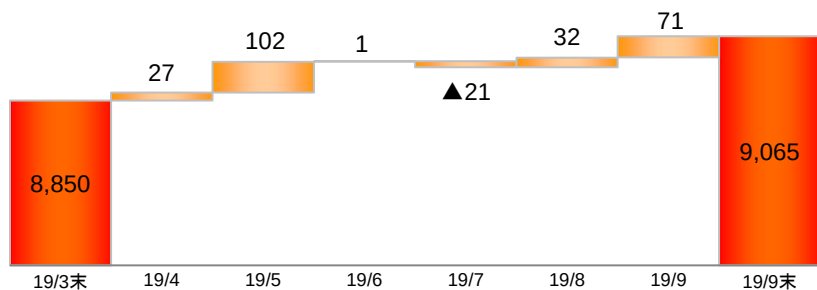
ローン・クレジットカード事業 営業債権残高

営業債権残高 月間増減額 (億円)

2022年3月期



2020年3月期

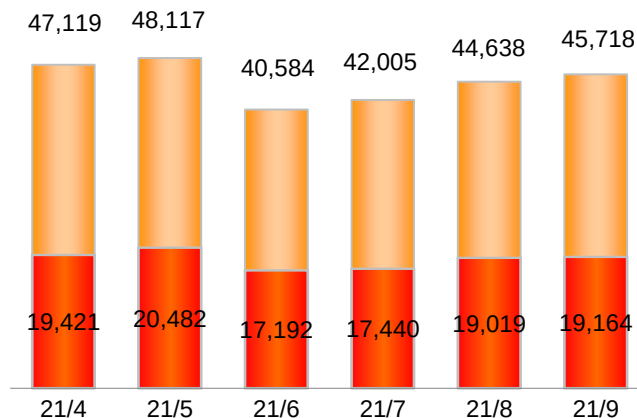
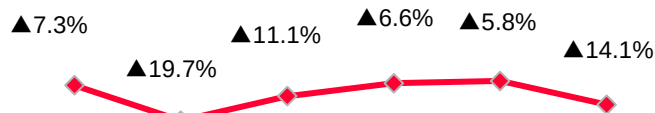


<月間増減額の2020年3月期同月比>

4月	5月	6月	7月	8月	9月
▲27	▲67	▲24	▲21	▲27	▲43

ローン事業 新規申込数および新客数

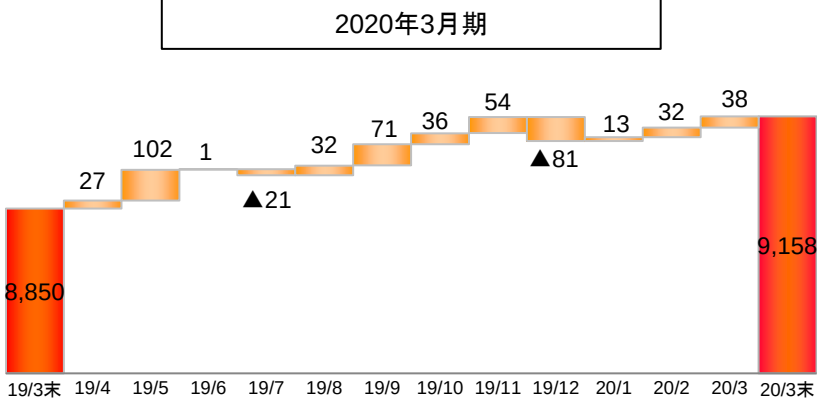
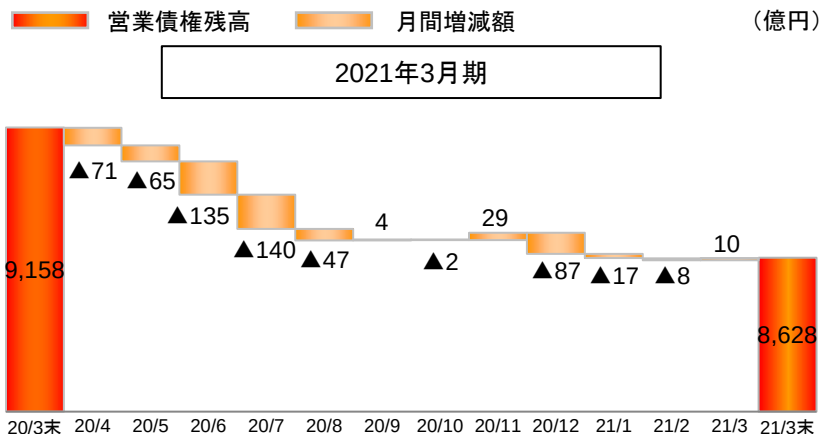
申込数 新客数 2020年3月期同月比 (申込数) (件)





【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2021年3月期①～

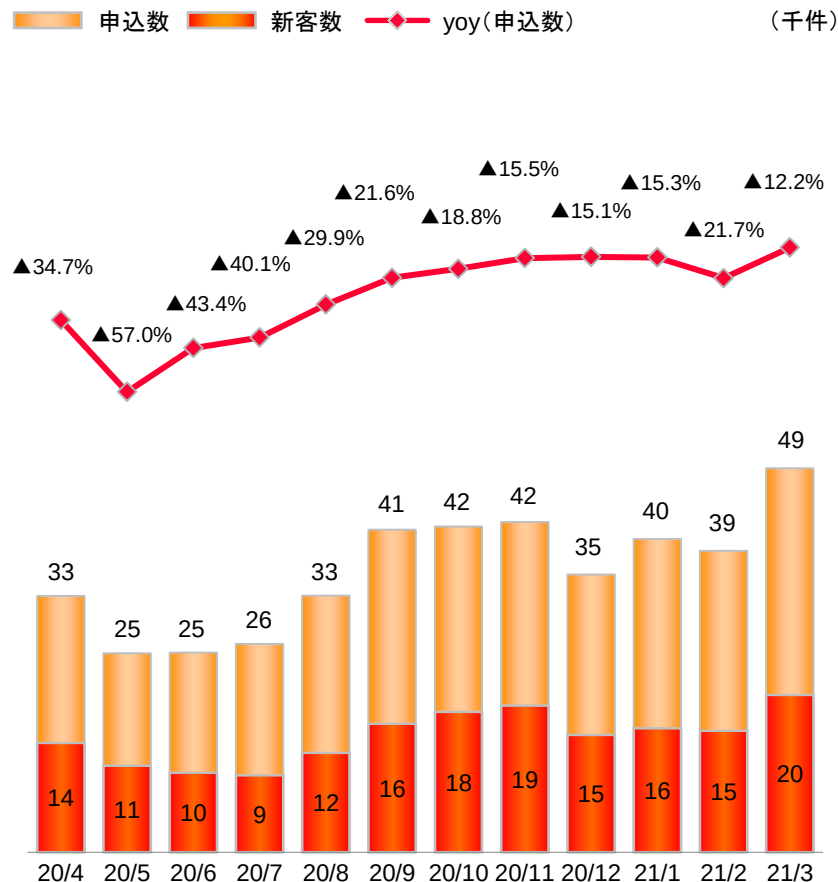
ローン・クレジットカード事業 営業債権残高



<月間増減額の前年同月比>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
▲99	▲168	▲137	▲118	▲79	▲66	▲39	▲24	▲5	▲30	▲40	▲27

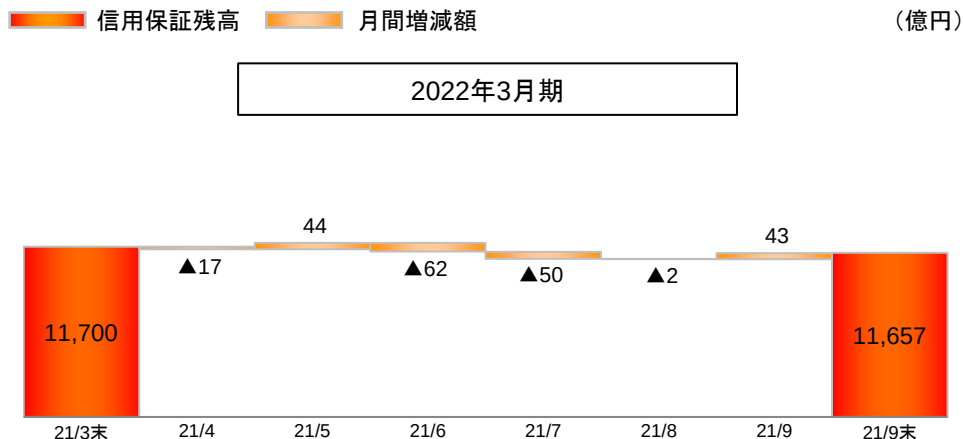
ローン事業 新規申込数および新客数





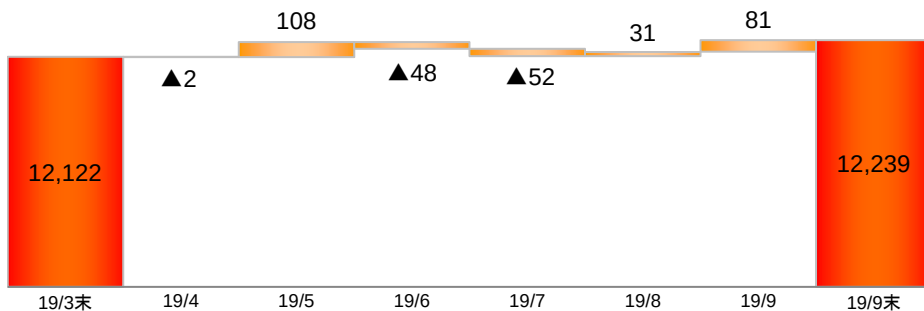
【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2022年3月期②～

信用保証残高(アコム、エム・ユー信用保証)



(億円)

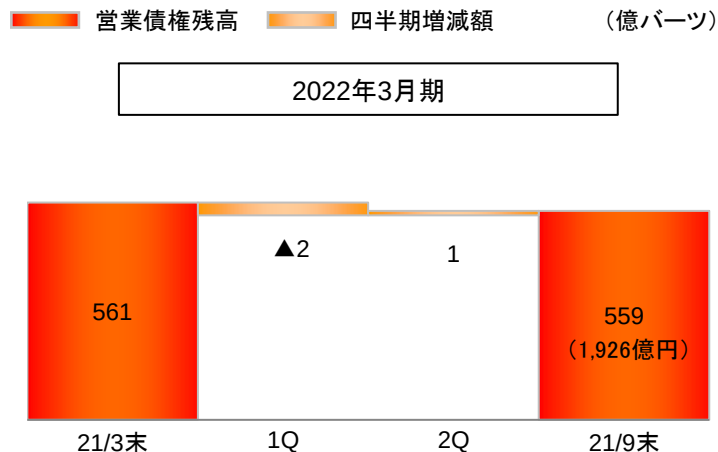
2020年3月期



<月間増減額の2020年3月期同月比>

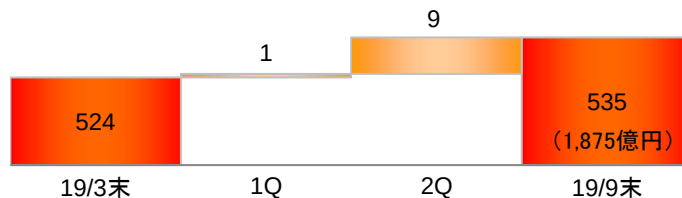
4月	5月	6月	7月	8月	9月
▲14	▲64	▲13	2	▲33	▲37

営業債権残高(※)(EASY BUY)【現地通貨ベース】



(億バツ)

2020年3月期



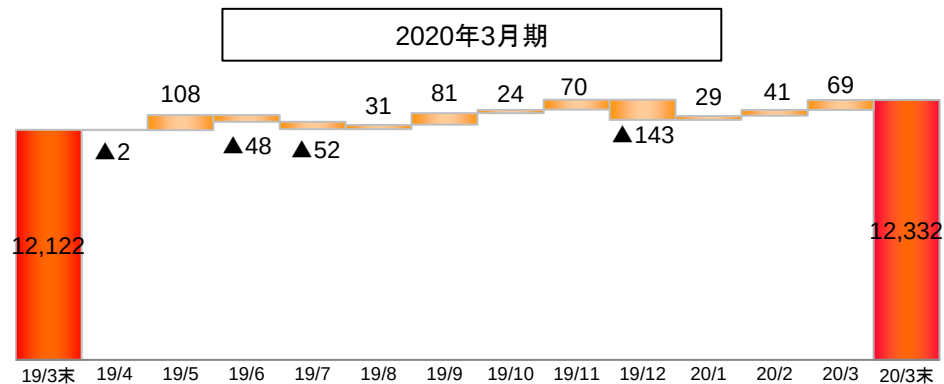
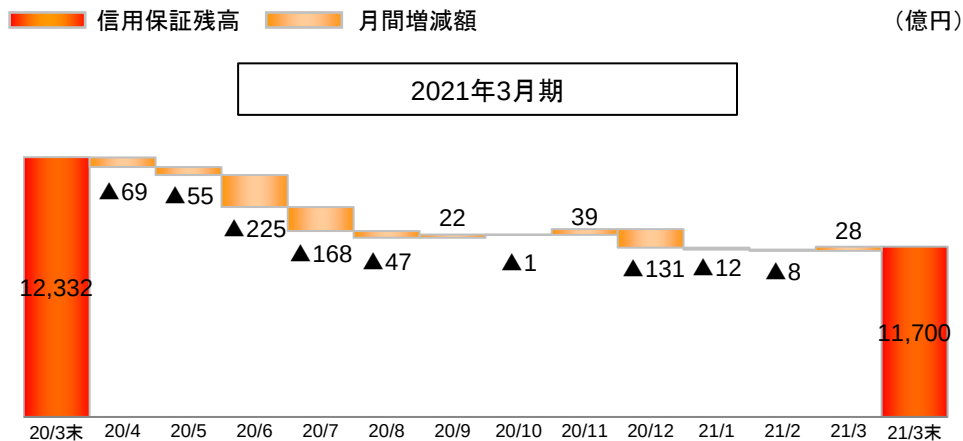
(1,875億円)

※ 営業債権残高 = 営業貸付金残高 + 割賦売掛金残高



【参考】新型コロナウイルス感染症の影響～2021年3月期②～

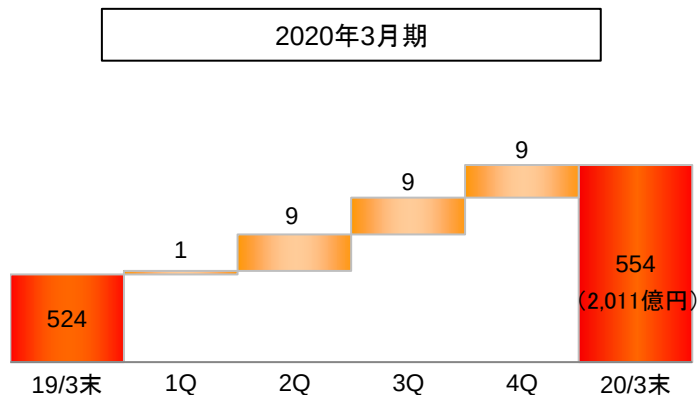
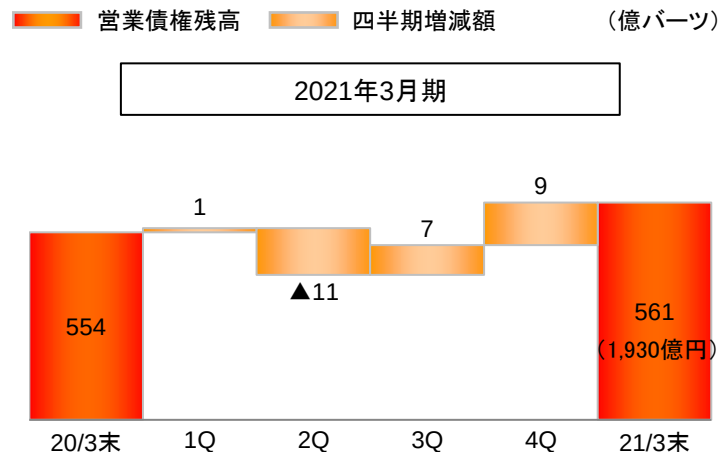
信用保証残高(アコム、エム・ユー信用保証)



<月間増減額の前年同月比>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
▲66	▲164	▲176	▲116	▲79	▲59	▲26	▲31	12	▲42	▲49	▲41

営業債権残高(EASY BUY)【現地通貨ベース】





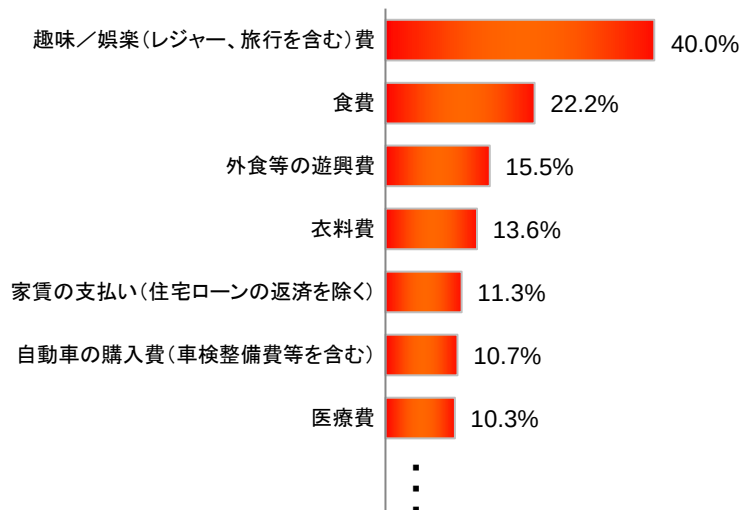
【参考】コロナ禍における借入行動等の変化

新型コロナウイルス感染拡大による貸金業者への影響

- 新型コロナウイルス感染拡大による外出（活動）自粛等により、「趣味や娯楽（レジャー、旅行を含む）費」、「外食等の遊興費」などの資金需要が低下
- 「借入行動について特に何の影響もない」という回答が半数弱を占める中、外出（活動）自粛等による支出の減少により、「新たな借入を控える」、「借入金への返済に充てる」等、行動が変化

借入申込を行なった際の資金使途（※1）

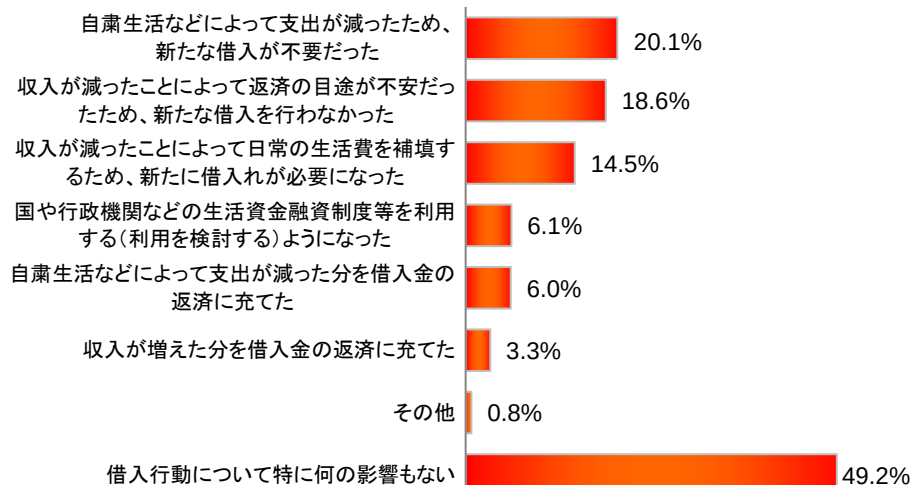
調査対象：借入経験のある個人（※2）（複数回答／n=2,000）



※10%以下の数値については省略

新型コロナウイルス感染拡大による借入行動への影響（※1）

調査対象：借入経験のある個人の内、新型コロナウイルス感染拡大による社会生活等への影響が現時点で出ている（今後影響が出る可能性がある）と回答した者（複数回答／n=1,554）



※1.日本貸金業協会の令和2年11月30日付「資金需要者等の借入意識や借入行動に関する調査結果報告」より抜粋

※2.借入経験のある個人に対して直近3年間における借入申込の資金使途について調査



【参考】優先的に取り組む社会課題と対応するSDGs

「SDGs」、「日本政府のSDGs実施指針」等で明示された社会課題に対して、
経営環境や社会課題に対する取り組みの重要性等を踏まえつつ、
当社が優先的に取り組むべき6つの社会課題を特定し課題解決に向けて取り組む。

消費者保護・金融リテラシーの向上

- 金銭教育の実施
- 返済相談への柔軟な対応
- カード不正利用被害への対応
- 金融詐欺被害防止のための注意喚起
- 消費生活センターなどとの情報交換

対応する
SDGs



ダイバーシティの推進

- くるみん認定の取得
- キャリアアップ支援
- 定年退職者再雇用の取り組み
- 使用済み切手などの収集を通じた障がい者支援
- アコム“みる”コンサート物語を通じた障がい者支援

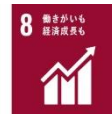
対応する
SDGs



働き方改革の推進

- 育児・介護との両立支援
- 柔軟な働き方への支援
- 健康経営の推進

対応する
SDGs



イノベーションの推進

- デジタルチャネルのユーザビリティ向上
- AI・Big Dataを活用したデータ分析
- RPAの活用



対応する
SDGs



地域の活性化

- アコム“みる”コンサート物語
- アコム青い鳥募金
- 献血活動
- 信用保証事業における提携金融機関との関係強化



対応する
SDGs



環境に配慮した企業活動の推進

- ATM・電飾看板などの消費電力削減
- ペーパーレス化対応
- 地域清掃活動の実施
- グリーン購入の導入
- 森林保全活動



対応する
SDGs





【参考】2022年3月期 通期計画

	(単位:百万円、%)	A	B	C	D	E	F	G	H
		連結				単体			
		2021/3		2022/3		2021/3		2022/3	
<業容>		実績	yoy	計画	yoy	実績	yoy	計画	yoy
1 営業債権残高		2,235,147	-5.3	2,290,400	2.5	1,875,137	-5.7	1,917,100	2.2
2 ローン・クレジットカード事業		862,839	-5.8	878,000	1.8	862,839	-5.8	878,000	1.8
3 信用保証事業		1,170,094	-5.1	1,204,800	3.0	1,012,297	-5.5	1,039,100	2.6
4 海外金融事業		193,709	-3.9	200,100	3.3	-	-	-	-
<業績>									
5 営業収益		266,316	-4.7	260,700	-2.1	197,986	-4.3	193,800	-2.1
6 ローン・クレジットカード事業		144,417	-3.2	142,000	-1.7	144,417	-3.2	142,000	-1.7
7 信用保証事業		64,245	-6.3	62,400	-2.9	53,478	-7.2	51,700	-3.3
8 海外金融事業		52,136	-7.4	51,200	-1.8	-	-	-	-
9 営業費用		167,419	-17.9	180,800	8.0	124,047	-21.3	135,000	8.8
10 金融費用		5,870	-28.7	5,000	-14.8	3,841	-17.4	3,400	-11.5
11 貸倒関連費用		66,198	-19.2	78,400	18.4	46,472	-25.0	57,000	22.7
12 利息返還費用		-	-	-	-	-	-	-	-
13 その他の営業費用		95,350	1.4	97,400	2.1	73,733	3.3	74,600	1.2
14 営業利益		98,896	30.8	79,900	-19.2	73,938	50.1	58,800	-20.5
15 経常利益		100,014	33.2	80,100	-19.9	81,254	44.2	64,800	-20.3
16 税金等調整前当期純利益		99,297	24.1	79,900	-19.5	80,542	25.6	64,600	-19.8
17 当期純利益		83,643	30.7	64,800	-22.5	70,915	32.1	55,400	-21.9
18 親会社株主に帰属する当期純利益		78,864	32.3	61,000	-22.7	-	-	-	-



【参考】中期経営方針、中期重点テーマ

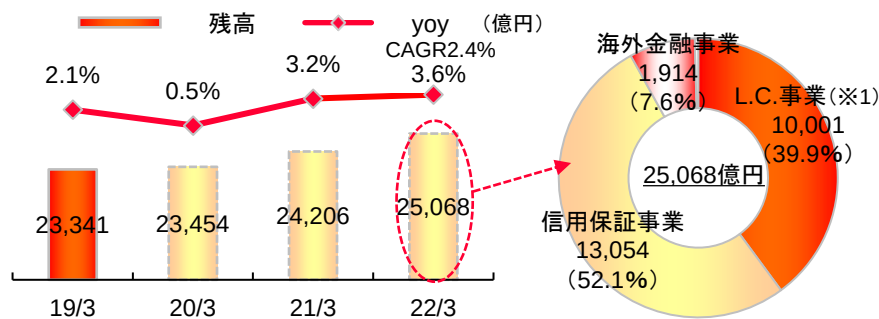
創業の精神	信頼の輪	
社名の由来	Affection（愛情） COnfidence（信頼） Moderation（節度）	
企業理念	アコムは人間尊重の精神とお客さま第一義に基づき 創造と革新の経営を通じて 楽しく豊かなパーソナルライフの実現と生活文化の向上に貢献する	
経営ビジョン	一人でも多くのお客さまに最高の満足を感じていただき 個人ローン市場において社会に信頼される「リーディングカンパニー」を目指す	
主たる事業 ドメイン	国内	ローン・クレジットカード事業、信用保証事業
	海外	ASEANにおけるローン事業
中期経営方針	環境変化にスピード感をもって対応し、持続的成長と企業価値の向上を図るとともに、 お客さまの期待を超えるサービスを創出する	
中期重点テーマ		事業戦略
① コンプライアンス・カルチャーの醸成 ② 採用・育成・定着の強化による人材基盤確立 ③ 与信・プロモーションの高度化による集客力向上 ④ 応対品質強化とデジタル化推進による良質な顧客体験の提供 ⑤ ローン・クレジットカード事業の持続的な業容拡大 ⑥ 信用保証事業における提携先との更なる連携強化	ローン・ クレジットカード事業	➤ 顧客ニーズの変化に適応した商品・サービスの提供 ➤ 安定した集客に向けた与信・プロモーション戦略
	信用保証事業	➤ 既存提携先との連携強化 ➤ 収益性の向上 ➤ 新規保証提携先の拡大
	海外金融事業	➤ ASEANを中心とした調査活動 ➤ 既存子会社の経営管理態勢の強化
⑦ 海外金融事業の基盤拡充 ⑧ 適正な債権保全の実現 ⑨ 環境変化への確に対応するためのIT態勢構築 ⑩ 業務改革による高品質・高生産性の態勢構築	機能戦略	
	デジタル／IT	➤ キャッシュレス社会に適応した「融資・決済」サービス ➤ 超即時審査の実現による良質な顧客体験の創出 ➤ 基幹システムのリノベーションの推進
	業務改革	➤ 業務改革推進体制の整備 ➤ RPAの全社展開



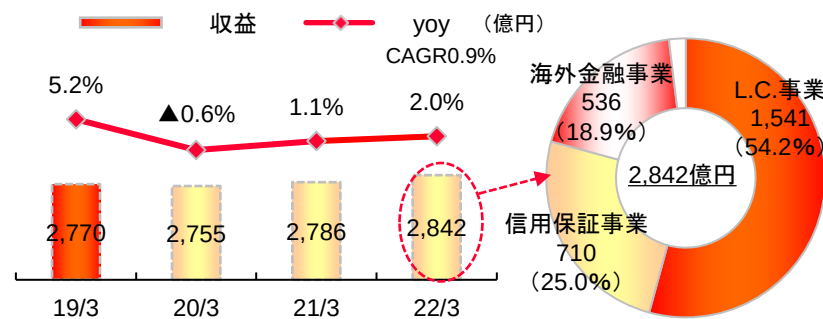
【参考】中期経営計画(2020/3 - 2022/3) 業容・業績

- 業容は中核3事業へのデジタル投資等により、2.5兆円を目指す。業績は増収増益を目指す
 - ・20年3月期：業容は、Bank BNPの影響によりほぼ横這い。収益は、当該影響に加え、保証料率の低下により減収
 - ・21年3月期：業容は、順調に拡大。業績は、業容拡大により増収、増益
 - ・22年3月期：業容は、順調に拡大。業績は、更なる業容拡大により、成長率が加速

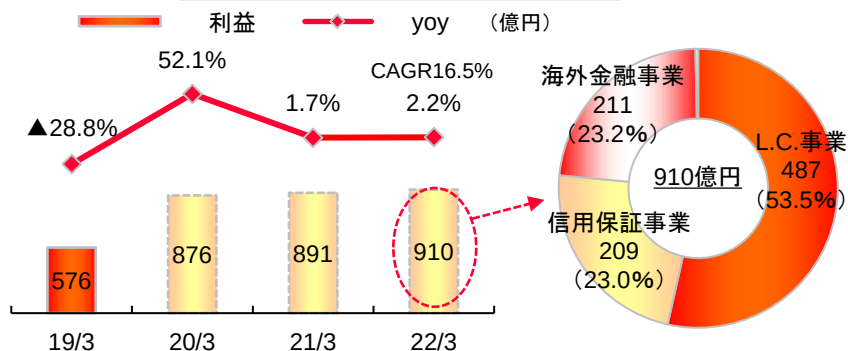
営業債権残高



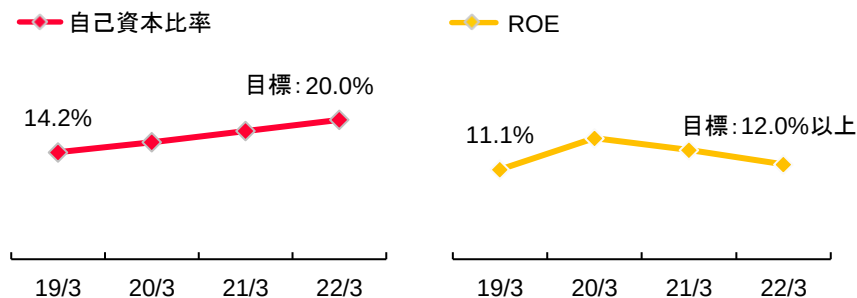
営業収益



営業利益



自己資本比率(※2)・ROE



※1. L.C.事業とは、ローン・クレジットカード事業

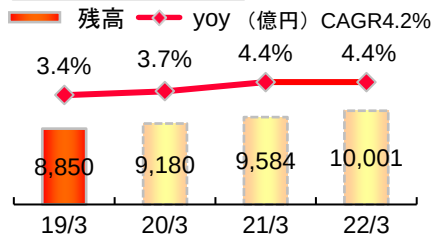
※2. 総資産に信用保証残高を加算して算出した自己資本比率



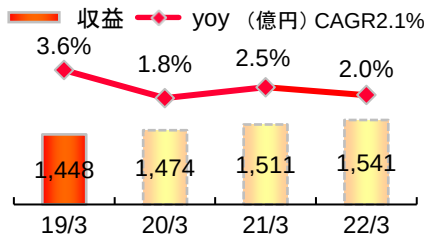
【参考】中期経営計画(2020/3 - 2022/3) 事業別業容・業績

ローン・クレジットカード事業

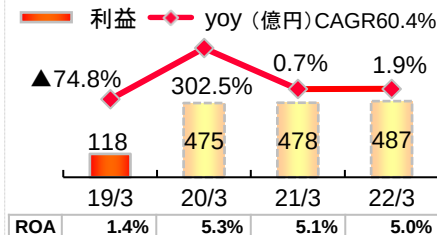
営業債権残高



営業収益



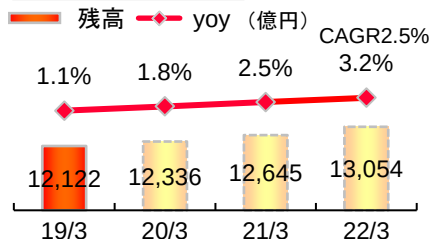
営業利益



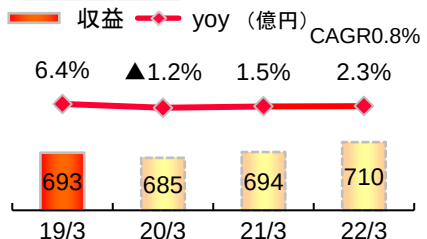
- ・残高は1兆円を目指す
- ・収益は1,541億円、利益は487億円を目指す

信用保証事業

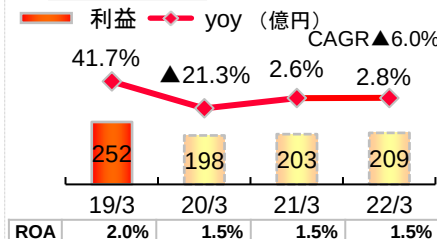
信用保証残高



営業収益



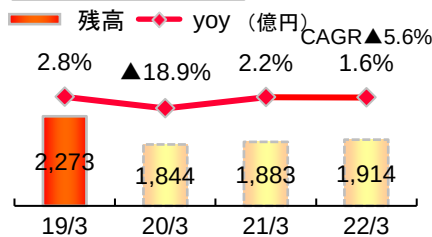
営業利益



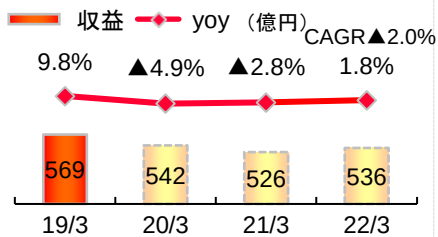
- ・残高は1.3兆円を目指す
- ・収益は710億円、利益は209億円を目指す
- ・20/3の収益は保証料率低下により減収

海外金融事業(※)

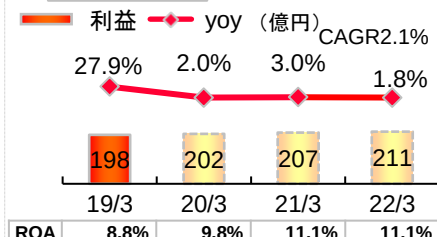
営業債権残高



営業収益



営業利益

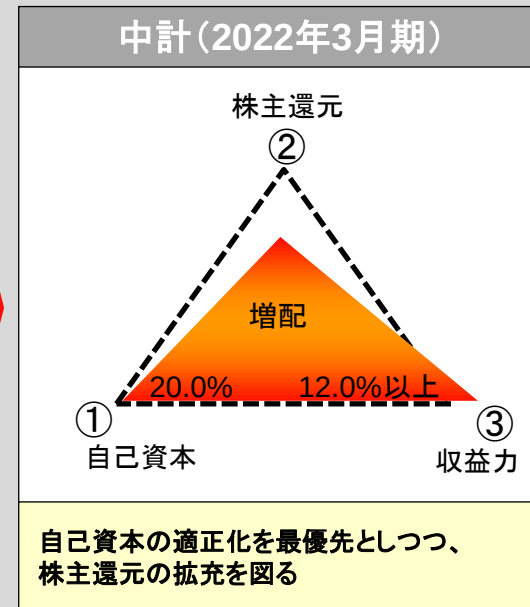
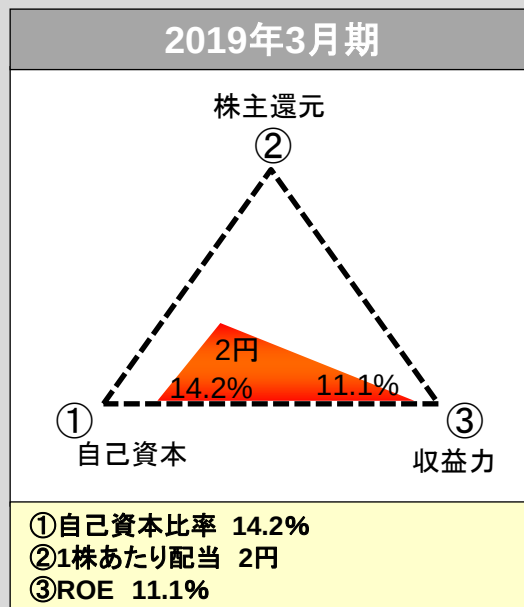
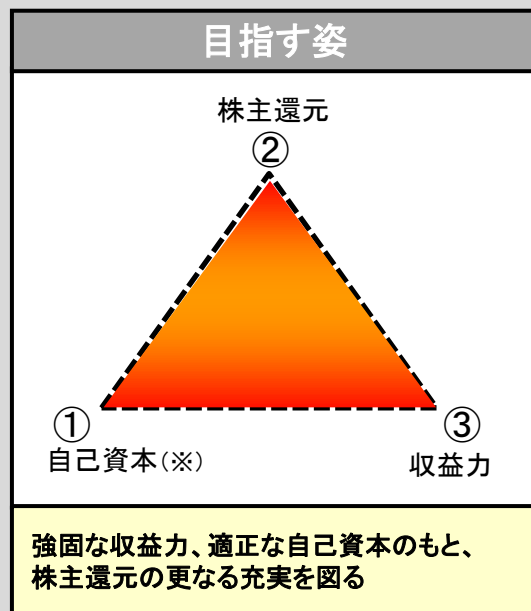


- ・残高は1,914億円を目指す
- ・収益は536億円、利益は211億円を目指す
- ・20/3の残高、収益は、Bank BNPの影響によりマイナス成長

※ 2019年4月にBank BNPが連結除外となったため、Bank BNPの業容は2020年3月期計画に含めず、業績は2020年3月期計画に4ヶ月分計上

【参考】中期経営計画(2020/3 - 2022/3) 資本政策

資本政策の基本的な考え方



配当の基本的な考え方

- 業績、自己資本ならびに当社を取り巻く経営環境を勘案の上、安定的、継続的な利益還元を図り、株主還元の充実を目指す

	2019年3月期(実績)		2020年3月期(実績)		2021年3月期(実績)		2022年3月期(予想)	
	中間	期末	中間	期末	中間	期末	中間	期末
配当金	1円	1円	2円	2円	3円	3円	3円	3円
	年間2円		年間4円		年間6円		年間6円	

※総資産に信用保証残高を加算して算出した自己資本比率



本件照会先：広報・IR室

電 話 番 号 03(5533)0861

メールアドレス ir@acom.co.jp

免責事項

本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、本資料の発表日現在において入手可能な情報等に基づいて作成したものです。しかしながら、当社グループの事業展開上リスクとなる可能性がある要素が複数存在しております。特に新型コロナウイルス感染症拡大の影響により停滞している経済活動が、徐々に回復していくことを前提に計画を策定していることから、新型コロナウイルス感染症の収束状況によって、実際の業績等は大きく異なる可能性があります。

また、利息返還請求の動向は、外部環境の変化等に影響を受けやすいことから特に不確実性が高く、その影響として利息返還損失引当金繰入額を計上する場合があります。

最終の業績はこれらのリスクを含むさまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。